

— 志賀原発が重大事故を起こしたら —

避難行動についての住民アンケート調査

報告書



2022年12月13日

「避難行動についての住民アンケート調査報告書」の発行にあたって

原発の安全神話が崩壊した福島第一原発事故からまもなく12年になります。原子炉建屋の爆発、被ばくの恐怖、懸命に避難する人々の姿、世界を震撼させた事故の記憶が徐々に薄れつつある中、政府は原発の新增設や再稼働の加速など、ふたたび原発に大きく依存する社会へと舵を切ろうとしています。北陸電力も志賀原発の一日も早い再稼働を目指しています。

こうした中、11月23日には石川県原子力防災訓練が実施されました。福島原発事故の後、原子力防災計画は大きく見直され、原子力災害対策重点区域は概ね原発から30キロ圏に拡大され、避難計画も策定されています。訓練はこれらの計画の実効性を検証し、さらに充実を図ることを目的としていますが、はたして住民のいのちや暮らしは守ることができるのでしょうか。

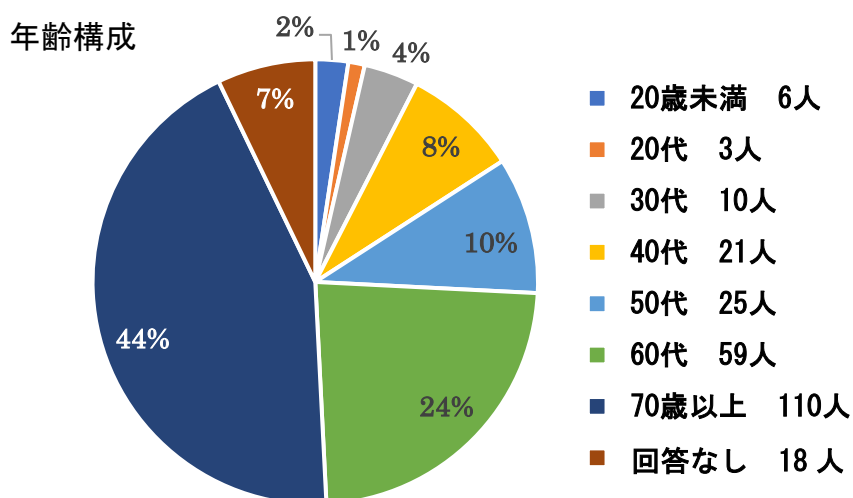
原子力防災は行政や防災関係機関だけで成り立つものではありません。計画が住民に周知され、住民は計画を理解し、納得し、行動することが前提となっています。

重大事故は起こりうるとされる中、果たして住民はどのように考え、どのように行動するのでしょうか。私たちは計画の課題や問題点を考えるうえで、住民の意識を知ることが不可欠だと考え、今回の訓練で避難対象地域となった志賀町と七尾市で、志賀原発が重大事故を起こした場合の避難行動について、住民の皆さんにアンケート調査を実施しました。原子力防災に対する実に貴重な声をたくさんいただくことができました。調査にご協力いただいた252人の皆様に心より感謝申し上げます。

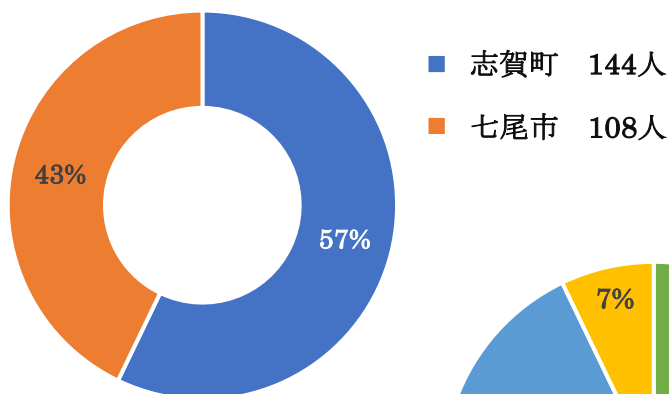
アンケート結果は今後の私たちの活動に多くの示唆を与えてくれるだけでなく、自治体関係者や原子力防災に関心を持つ人にとっても興味深い内容ではないかと思います。今後の原子力防災の議論を深めるための一助になればとの思いからこの報告書を作成しました。ご活用いただければ幸いです。

調査日	2022年11月23日（石川県原子力防災訓練実施日）
調査対象地区	PAZ（原発から概ね5km圏） 志賀町 志賀浦地区、福浦地区 UPZ（原発から概ね5～30km圏） 志賀町 高浜地区、土田地区 七尾市 田鶴浜地区、矢田郷地区、東湊地区、北大呑地区
調査対象者	避難訓練参加者および避難訓練対象地区住民 ※高浜地区は今回避難対象地区ではないので、地区住民にアンケート実施 ※原発の賛否等には関係のない事実上の無作為抽出
調査員	石川県平和運動センターを中心とした本調査実施団体の構成員
調査方法	調査員による対面聞き取り調査

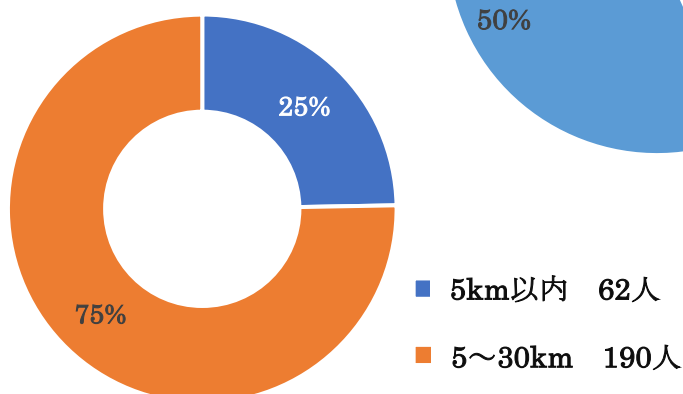
質問1 あなたの年齢について



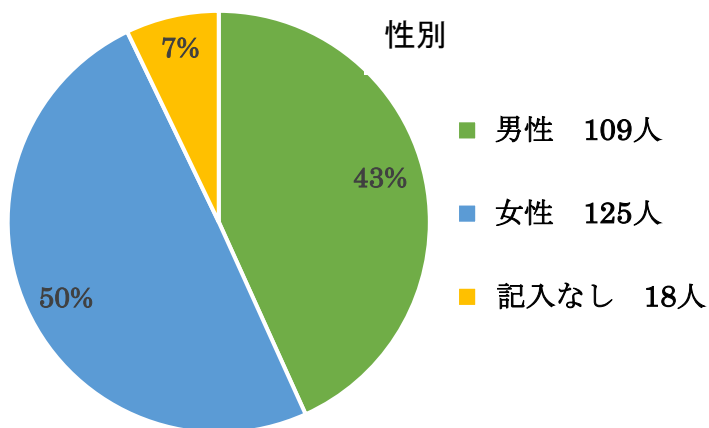
調査対象者の居住地



原発からの距離

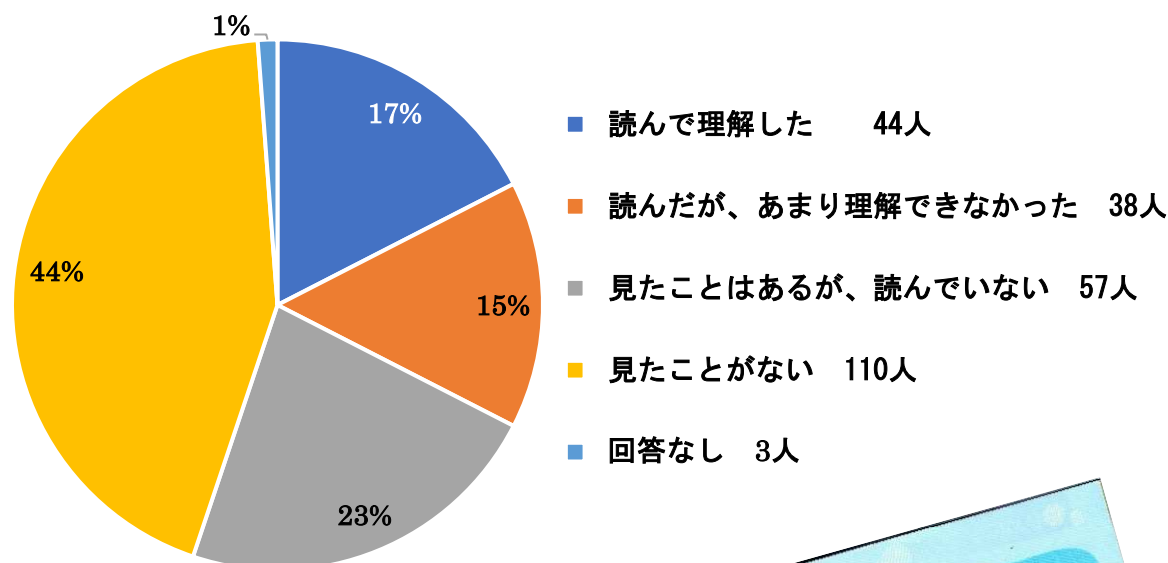


性別



アンケートにお答えいただいた方は252人。若い世代の比率が低いのは残念ですが、性別や居住地のバランスは概ね期待通りの結果となっています。原発近くの集落からほぼ30km離れた地域まで、8地区に入ることができ、5km圏内（PAZ）と5～30km圏内（UPZ）の比較、あるいは原発からの距離が防災意識に与える影響などを把握することも可能となりました。

質問2 石川県が発行している「原子力防災のしおり」が30キロ圏全戸に配布されています。あなたは読まれましたか。



原子力防災計画・避難計画がどの程度周知されているかを把握するための質問です。

「原子力防災のしおり」は、①放射線の基礎知識、②災害時の対応、③原子力防災対策という内容で構成されており、どの町会・集落の人はどの自治体のどの施設へ避難するのかという一覧も記載されています。

調査員は「しおり」の表紙（右図）をコピーした用紙を見せながら質問しました。

この「しおり」が全戸配布されたのは2014年頃です。当時は読んでいても忘れてしまった人もいるかもしれませんが、「読んでいない」、「見たことがない」と回答した人は合わせて67%、読んで理解したという人はわずか17%という数字は、行政の原子力防災に対する取り組みの弱さを端的に示しています。

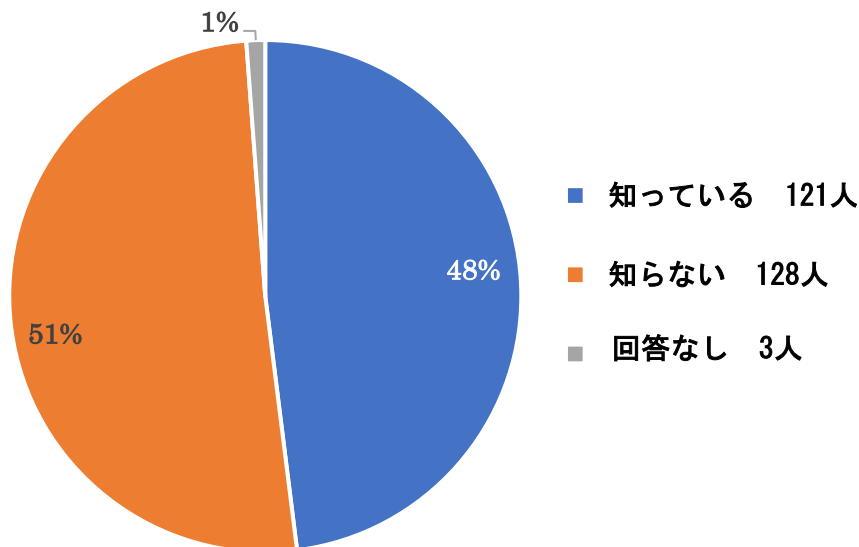
地域別の特徴が顕著で、5km圏（PAZ）の福浦地区は「見たことがない」という人はゼロ、志加浦地区でも28%です。一方、5～30km圏（UPZ）では52%の人が「見たことがない」と答えています。特に原発からほぼ30kmの距離にある北大呑地区では全員が「見たことがない」と回答しています。

また、年齢別でも、40代以下では「見たことがない」という人は40人中28人と、実に7割にのぼります。

志賀原発は2011年3月から停止中であるとはいえ、使用済み核燃料などが保管されています。原子力災害には常に対応できるようにしておかなければなりません。「しおり」を作成して終わりという行政の怠慢は厳しく批判しなければなりません。

質問3 石川県やあなたがお住いの自治体の原子力防災計画によると、5キロ圏の住民と5～30キロ圏の住民で、避難のタイミングが違うことをご存知ですか。

5キロ圏（PAZと言います）にお住いの方は、原発に異常が発生したら、周辺環境に放射能が漏れだす前に避難を開始します。5～30キロ圏（UPZと言います）にお住いの住民は、放射線量が20マイクロシーベルト／時間（自然放射線量の約400倍）を超えるまで自宅などで屋内退避をすることになっています。



原子力防災計画・避難計画の大きな特徴の一つである段階的避難を理解しているかどうかを問う質問です。

「知っている」、「知らない」がほぼ同数でした。「原子力防災のしおり」を「読んで理解した」という人の数を大きく上回っています。「しおり」は放射線の解説など様々な内容が盛り込まれていますので、「理解した」とは言いにくいかもしれませんが、避難計画の中で最も重要な避難のタイミングと、問5で取り上げる避難先施設は知っているという人がほぼ半数にのびります。

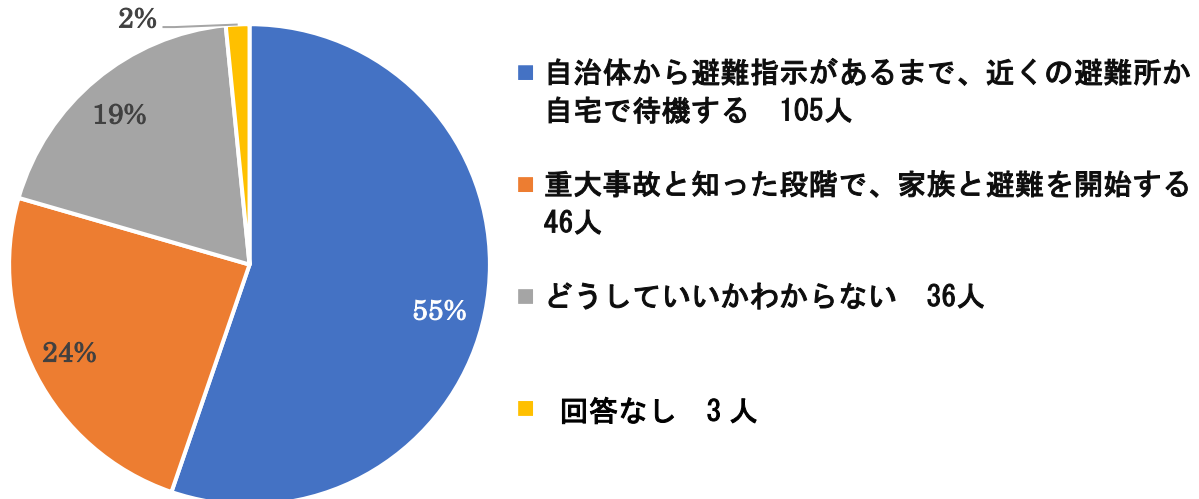
ここでも地域間の違いが見られます。5～30km圏（UPZ）の志賀町の高浜地区や土田地区、七尾市内でも矢田郷地区や田鶴浜地区では「知っている」がそれぞれ6割前後であるのに対して、原発からさらに距離がある東湊地区は38%にとどまります。さらに30km近く離れた北大呑地区では、問2の「しおり」同様、調査対象者全員が「知らない」と回答しています。原発から遠ざかるほど、原子力防災への関心が薄れているとも考えられますが、行政の対応にも問題はないか、検証も必要です。

また、志加浦地区と福浦地区とはともに5km圏（PAZ）ですが、志加浦地区は「知っている」が45%とほぼ平均値であるのに対して、福浦地区は17%と北大呑地区に次いで低い数値となっています。福浦地区は原発から1.5～3kmという近距離にあり、志加浦地区と異なり急な坂道や狭い道路も多く、避難のための集合場所まで行くことも容易ではありません。計画に記された段階的避難の一段目は、「全面緊急事態に至ったとき、5km圏内の住民は直ちに避難」ですが、それ自体が実現困難と感じている住民も多いのではないのでしょうか。

質問4（5～30キロ圏にお住まいの方にお聞きします）

志賀原発が全面緊急事態※となり、屋内退避の指示が出た場合、あなたはどのような行動を考えますか。

※原子炉冷却機能の喪失、全ての原子炉停止操作の失敗、炉心損傷の検出など。



段階的避難について、納得し、行政の指示に従って行動するのかどうかを問う質問です。質問の対象は、5～30km圏の住民（190人）です。

行政の指示に従わず自らの判断で避難する、いわゆる自主避難者の割合は全体の24%でした。2014年に石川県が行った「避難時間推計シミュレーション」は自主避難者の割合を40%と見込んでいましたので、この数値だけをみるならば行政への信頼が予想以上に高いように読み取れます。

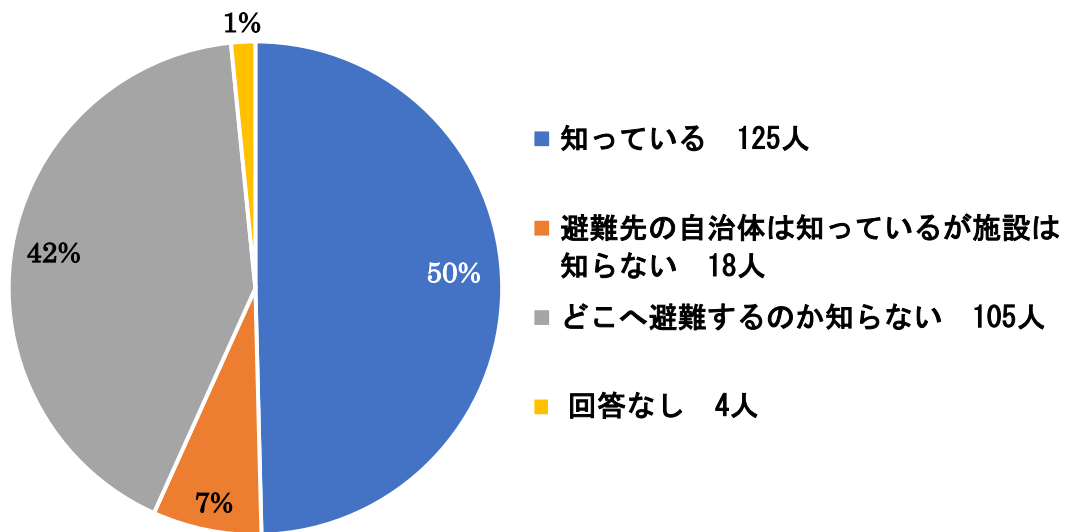
しかし、移動手段を持ち、放射線のリスクがより高く、子育て世代でもある40代以下の世代でみると、「行政の指示に従う」とした人が14人、「自主避難」を選択する人が16人、「わからない」が6人で、自主避難者の割合は44%へと跳ね上がります。問1で示したように、今回の調査対象者の中で40代以下は16%にとどまっており、これが自主避難率を24%へと引き下げた大きな要因だと思われます。実際に重大事故に直面したときには、若い世代を中心に一刻を争うように避難行動を開始するのではないのでしょうか。屋内退避で被ばくのリスクを受け入れるか、渋滞の混乱が予想される中であっても自主避難を開始するか。原子力防災は、このような悩ましい選択を住民に迫ります。行政は計画の周知に務めると口を揃えて言いますが、計画を周知しても、納得して計画通りの行動をするとは限りません。

なお、この問いに対する男女差は特に見られません。

もう一点、この問いに対する回答を読み解くうえで注意すべき点があります。行政の指示に従うか、逆らうかと問われれば、よほど明確な意思を持っている人でない限り、行政の指示に従うという「模範回答」を選択する傾向があるということです。いざ重大事故となれば、「どうしていいかわからない」と回答した人も含め、少なからず自主避難を選択すると思われます。

24%を最低ラインと捉え、若い世代がこれを押し上げ、さらに「模範回答」や「わからない」とした人がさらに数値を押し上げると捉えておくべきでしょう。

質問5 あなたは、あなたが住む地区の避難先施設をご存知ですか。



避難計画の重要な項目である避難先施設が周知されているかを把握するための質問です。半数の人が「知っている」と回答しています。

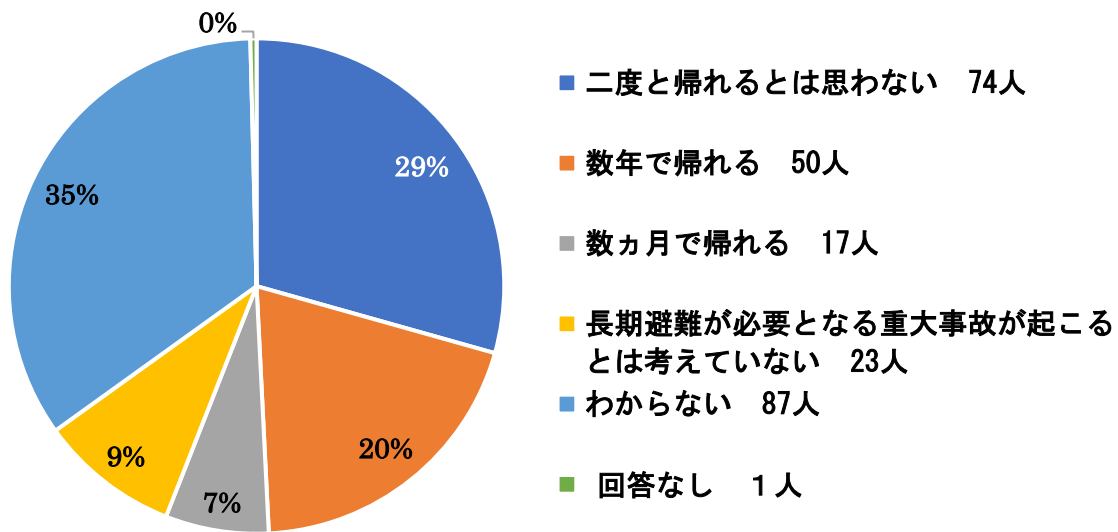
全国的には9割の住民が自家用車で避難すると見られています。県内でもほぼ同様の傾向だと思われませんが、そのような中で約半数の人たちが避難先施設を知りません。そして避難先が記載されている「原子力防災のしおり」も約半数の人が見たことがない、つまり身近なところがないということは、いざ避難となったときに大変な混乱が生じることは想像に難くありません。

居住地による違いにも注目しなければなりません。「知っている」と答えた人は、志賀町の58%に対して、七尾市は38%にとどまります。

年齢に着目すると、「避難先の自治体は知っているが施設は知らない」「どこへ避難するのか知らない」を合わせた123人のうち、60代以下は半数をやや上回る64人となっています。世代による明確な違いは見られませんが、自家用車避難の比率が高いと思われる60代以下の世代の方が70歳以上に比べて「知らない」とする比率が少し高くなっていることについては今後も注意して見ていかなければなりません。

調査結果について若干懸念されるのは、「知っている」と回答した人の中で、知っているとした施設はバス避難のための集合場所の可能性があるという点です。調査員が念を押して確認し、「知っている」を「知らない」に訂正した調査用紙が少なからず見受けられます。実際に避難先の施設を知っている人は半数を下回っていると捉えた方がいいでしょう。

質問6 志賀原発が重大事故を起こし、避難を開始する場合、石川県やあなたがお住いの自治体の原子力防災計画では長期の避難も想定されています。避難が長引く場合、どのくらいの期間になると思いますか。



重大事故が起こった場合の「長期避難」について、どのように理解しているかを問う質問です。

「二度と帰れるとは思わない」と答えた人が約3割、数年で帰れるという人が2割、合わせて半数となる結果は衝撃的です。一民間企業の、数ある発電手段の一つでしかない原発が、地域住民に重大な覚悟を迫っています。

地域別にみると、福浦地区は23人中約3分の2となる15人が「二度と帰れるとは思わない」と回答しています。同じく5km圏の志加浦地区は、福浦地区と比べると少なくなります。こちらでも39人中12人、約3割にのぼります。次ページに記載した意見を合わせて読むと、地域住民の複雑な胸中が伝わってきます。

原発と距離があるほど長期避難の尺度は短くなっていきますが、田鶴浜地区では48人中、「二度と帰れるとは思わない」という人は18人、数年単位の避難を覚悟している人は15人と、志加浦地区以上に事故の影響を深刻に捉えています。福島現状を見れば、決して過剰な反応ではなく、隣接自治体とはいえども七尾市も再稼働の是非を判断する重い責任があるということ、あらためて強く訴えなければなりません。

「数ヵ月で帰れる」「数年で帰れる」とした人も、次ページ以降の意見と合わせて読むと、「せめて数ヵ月で帰りたい」、あるいは「せめて2～3年で帰りたい」という願いが込められています。

回答の中で「わからない」とした人が35%にのぼります。確かに重大事故といってもどのような規模で、どのような影響を及ぼす事故かはわかりませんので、「わからない」としか答えようがないとの意見もあるかと思いますが、この「わからない」という回答の中には、「長期避難なんてこれまで考えたことがない」という意見も含まれています。安全神話の中で原発を誘致し、長期避難という事態が起こりうることは北陸電力も行政も伝えてこなかった訳ですから、福島原発事故までは「考えたことがなかった」という人も多くいることでしょう。しかし、安全神話が崩壊したいま、長期避難は決して絵空事ではありません。このアンケート調査を一つのきっかけとして、現実問題として考えていただければと思います。

志賀原発の再稼働や防災計画、防災訓練などについてご意見がありましたらお聞かせください。

志賀町

＜志加浦地区＞

- ・町の職員だったので訓練を受けていた。
- ・今の無線は何も聞こえない。昔は一軒一軒にあったが、防災無線は取り外した。歩かれない。週2回（ホームヘルパーに）来てもらっている。自分は一人暮らしだから誰が連れて行ってくれるかわからない。
- ・防災無線は外にいて聞く。家の中にあった無線は取り外された。車いすのおばあちゃんがいる。お父さんと2人で何とかする。はまなす園の人と話しているが再稼働しないしてほしい。若い者がいない。自分の命あきらめきれない、だから逃げる。
- ・訓練の案内など分かりにくい。
- ・事故が起こったら死ぬまで帰れないと思う。
- ・北陸電力勤務の息子は朝5時過ぎに訓練にいった。
- ・辛抱して生活しており、原発の安全を願っている。
- ・原発はよくないと思っていたが、息子、娘、嫁が原発関係に努めているので仕方がないと思っている。
- ・事故のないことを祈るだけ。
- ・事故はない。避難期間は考えない。
- ・防災訓練に行けばいいと思うが、なかなか行けない。
- ・止まっているが、安全を確認して動かしてほしい。みんなそう思っている。
- ・避難訓練は順番になっている。だから今日は指示に従う。事故があったら子ども2人で逃げる。子どもは大きくなって車があるので。
- ・防災無線は聞こえた。結婚した時から原発があったから、あきらめている。上の人は紙の上でしか考えていない。信用がない。
- ・(避難した場合) 希望として2～3年で帰りたい。

＜高浜地区＞

- ・事故のないことを祈るだけ。
- ・重大事故が起こることは考えていない。長いスパンで考えていく必要がある。
- ・地域の人に、もっと広く訓練してほしい。
- ・二度と帰られなくなるのは困る。
- ・行政の人が何をやっているかわからない。人がいっぱい集まっているだけ。しっかりしろ。

- ・早く廃炉になるとよい。できてしまっているのに訓練等にお金がかかっている。
- ・一度訓練に参加したが、事故が起こると厳しい状況だと思った。

<土田地区>

- ・以前は屋内放送があったが、現在は屋外放送のみで聞こえない。
- ・今回初めて参加する。
- ・初めての参加で何とも言えない。
- ・訓練は頻繁にしてほしい。
- ・七尾火電がフルに動いている。仕事する人が心配。福井の原発が全部止まったらどうなるか。ろうそく、ランプの時代になれるのか。
- ・訓練した後でないとわからない。
- ・原発が止まっても訓練は大事。
- ・今日初めてなので、ある程度訓練の内容を事前に知らせてほしい。
- ・長々と活断層審議しているな。
- ・訓練終わってみないとわからない。

七尾市

<矢田郷地区>

- ・高齢のため避難できない。
- ・原子力防災なんて考えたことない。
- ・避難先は知っているが、自力では動けない。
- ・できるだけ被害が少なくなるように。事故は起きて欲しくない。
- ・本当は原発なんかない方がよい。福島事故のようになるから。
- ・道路が良くなったり、電気料が安くなったりと自分の世代だけのことを考えていてはだめだ。
- ・矢田郷地区は原発から距離もあるので、避難もなんとかかなると思っている。
- ・避難の放送が聞きづらい。特に女性の声は不明だ。
- ・防災は身近な問題ではない。
- ・正直言って原発なんか動かしてほしくない。太陽光発電について詳しく教えてほしい。
- ・自然のこと、人間の調査が100%安全ということはない。不安もあるが、距離もあり深刻に考えてはいない。
- ・集合場所のサンライフに行けばなんとかかなる。行政を信頼している。
- ・私はいつ死んでもいいが、若い人が可哀そう。
- ・からだが悪く、動けない。民生委員にお願いしている。

<田鶴浜地区>

- ・再稼働しなければ問題はない。廃炉の方向で考えてほしい。
- ・原発はいらない。原発やめて。原発、動かさないで。
- ・事故にならないように。
- ・電気は必要、原発以外を求める。
- ・いまさら要望はなし。
- ・有線マイクが聞き取れない。障がい者対策をしてほしい。
- ・集合場所のコミュニティセンターまでの道が狭い。
- ・事故は起こして欲しくない。
- ・再稼働に反対です。
- ・原発の必要性は全くないと思います。
- ・防災スピーカーが響いて聞こえない。昔、配布された防災ラジオの方がよかったです。
- ・事故は起こさないでほしい。
- ・原発は絶対反対です。
- ・再稼働は馬鹿げている。
- ・防災訓練は実効性がない。
- ・再稼働は反対です。
- ・危険なものはやめてほしい。やめる勇気が必要！！
- ・再稼働しないように祈っています。
- ・自らがもっと意識を持って防災計画を考えないといけないと思います。
- ・再稼働については反対です。一端事故が起きたら簡単に生活がもとに戻せるとは思わないから。
- ・再稼働は絶対反対です。
- ・原発がなければ、防災計画や防災訓練など大騒ぎしてやっていく必要もない。安全・安心の基本に立ち返ってほしい。
- ・訓練はきちんとやったほうがよい。通り一遍のものになっている。
- ・原発に特化した訓練をもっとやったほうがよい。
- ・原発に特化したパンフレットを出してほしい。

<東湊地区>

- ・防災無線の音を大きくしてほしい。聞こえづらい。
- ・再稼働に反対。七尾に原発の恩恵はなく、迷惑ばかり。
- ・人ごとのように考えていたので、もっと情報を発信してほしい。
- ・再稼働に反対、事故があったら大変。
- ・原発に対する危機意識が薄らいでいる。
- ・避難の方法が分からない。車もない。どこへ行ったら良いのか心配している。

<北大呑地区>

- ・新聞で氷見に逃げると言っているが、氷見に変わったん？
- ・津波が来るかもしれないので逃げる。
- ・事故がないことを祈るのみです。
- ・安全が確保されれば稼働はいいが、100%安全はない。再稼働はやめよ。
- ・避難するバスが足りないと聞いているので、逃げるのは難しいやろ。そんな危険な原発はやめてほしい。火力、風力、水力があるからいらない。
- ・原発防災の取り組みは知らないし、知らされていない。知らないことが多過ぎる。混乱する。
- ・役所の判断なんか聞いてられない。自分の判断で逃げる。
- ・本当に安全が担保できるなら稼働してもいい。しかし、手を抜く審査はやめてほしい。付度する学者はダメ。
- ・何にも知らなかったです。
- ・原発を動かさないでほしい。
- ・断層をしっかり調査してほしい。

住民アンケート調査実施団体

石川県平和運動センター

さよなら！志賀原発ネットワーク

志賀原発を廃炉に！訴訟原告団

原水爆禁止石川県民会議

社民党石川県連合